

関東学院大学 高等教育研究・開発センター 教員公募応募書類（様式）及び記入要領

履歴書（文部科学省様式第4号（その1）準拠）記入要領

- (1) 「氏名」欄については、旧姓等の通称名を使用している場合、（ ）書きで本名を併記してください。
- (2) 「生年月日（年齢）」欄の年齢には、作成日時点での満年齢を記入してください。

日付は西暦、和暦どちらでも差し支えありませんが、文書内で表記を統一してください。

(3) 「学歴」欄について

- ①高等学校卒業以上の学歴（大学の別科及び専攻科を含む）を有する場合、すべての学歴（授与された学位及び称号を含む）を記入して下さい。

なお、博士課程において所定の単位を取得し博士の学位を授与されないまま退学した場合には、「博士課程単位取得後退学」と記入してください。

- ②学位については、付記された専攻分野の名称及び学位論文の題目を併記してください。

学位における専攻分野の名称の表し方

例1) 「〇学修士」、「〇学博士」

例2) 「学士（専攻分野）」、「修士（専攻分野）」、「博士（専攻分野）」

※必ずご自身の授与された学位記を確認し、学位記通りに記入をして下さい。

- ③教員、学芸員、図書館司書、弁護士等の資格についても記入してください。その際、取得年月、登録番号を併記してください。外国における資格にあつては、正確に記入するとともに、その資格の内容を日本語で併記してください。

- ④学生としての外国の大学や研究機関等への留学歴についても記入してください。

- ⑤外国の大学等での学歴・経歴を記載する場合は、大学等の名称や学位等はアルファベットとカタカナを併記し、国名を必ず記載してください。職歴についても同様に扱ってください。

(4) 「職歴」の欄について

- ①すべての職歴（自営業、主婦、無職等を含む）を記入するとともに、職名、地位等についても明記してください。大学において専任教員である場合の職名は、教授、准教授、講師、助教、助手のいずれかを記入し、専任教員、任期制教員、テニユア・トラック教員、非常勤講師などの勤務形態について記入して下さい。

- ②各職歴について在職期間を明確にし、現職については「現在に至る」と記入してください。

- ③研究者としての外国の大学や研究機関等での留学・研究歴についても記入してください。

- ④過去に文部科学省の教員組織審査において教員の資格があると認められた場合には、当該審査に係る時期、大学の名称、職位及び担当授業科目の名称（大学院にあつては、判定結果を含む）を記入してください。また、過去に教職課程設置審査を受けた場合には、当該認定に係る時期、大学の名称、担当授業科目の名称を記入してください。

- ⑤大学教員等の職歴については、主な担当授業科目を併記してください。

(5) 「学会及び社会における活動等」の欄について

- ①「現在所属している学会」には、記入時において所属する学会の名称を記入してください。

- ②学会及び社会における活動等のうち、専攻や研究分野等に関連する事項を記入してください。

- ③教育研究上の業績を有する場合、その内容を具体的に記入してください。

- (6) 「賞罰」の欄には、学会や出版社からの表彰や職務上の表彰や懲戒処分、研究費の不正受給に係る処分等を記入してください。

【履歴書記入例】

履 歴 書					
フリガナ	カントウ ハッケイ	性別	男	生年月日 (年齢)	1982年9月20日 (満40歳)
氏名	関東 八景				
現住所	〒〇〇〇〇-〇〇〇〇 横浜市〇〇区1丁目1番〇〇				
電話番号	090-aaa-bbbb	メールアドレス	xxx@yyy.com		
学 歴					
年月	事 項				
2000年3月	〇〇県立〇〇高等学校 卒業				
2000年4月	〇〇大学〇〇学部〇〇学科 入学				
2004年3月	〇〇大学〇〇学部〇〇学科 卒業(「学士(△△学)」)				
2004年3月	教員免許状(中学校教諭一種免許状(〇〇科)取得(△△県教育委員会:平14中一種第××号)				
2004年4月	〇〇大学大学院〇〇研究科〇〇専攻〇〇博士前期課程 入学				
2006年3月	〇〇大学大学院〇〇研究科〇〇専攻〇〇博士前期課程 修了(「修士(△△学)」)				
2006年4月	〇〇大学大学院〇〇研究科〇〇専攻〇〇博士後期課程 入学				
2011年3月	〇〇大学大学院〇〇研究科〇〇専攻〇〇博士後期課程 修了(「博士(〇学)」) (博士論文題目:「〇〇と〇〇の研究」)				
職 歴					
年月	事 項				
2011年4月	〇〇大学△△学部 非常勤講師(「〇〇学概論」)(現在に至る)				
2011年4月	〇〇大学〇〇学部〇〇学科 助教(2011年3月まで)				
2013年4月	△△大学□□学部□□学科 講師(「〇〇学」、「〇〇概論」)(2014年3月まで)				
2016年4月	〇〇大学〇〇学部〇〇学科 講師 文部科学省教職課程設置審査合格(「〇〇学」、「〇〇概論」)				
2017年4月	〇〇大学〇〇学部〇〇学科 準教授(現在に至る)				
2019年4月	××大学大学院〇〇研究科博士前期課程 準教授(現在に至る) 文部科学省教員審査 〇〇専攻「M〇合」判定				
学 会 及 び 社 会 に お け る 活 動 等					
現在所属している学会	日本〇〇学会、日本□□学会				
年月	事 項				
2008年4月	日本〇〇学会会員(現在に至る)				
2012年4月	〇〇省××審議会△△分科会委員(2014年3月まで)				
2013年4月	日本□□学会正会員(現在に至る)				
2014年10月	全国〇〇協議会会員(2017年9月まで)				
賞 罰					
年月	事 項				
2017年3月	日本〇〇学会 ◇◇◇賞 受賞				
上記のとおり相違ありません。 氏名 関東 八景 印					
2023年8月1日					

教育研究業績書（文部科学省様式第4号（その2）準拠）記入要領

(1) 「氏名」の欄について

「氏名」の欄には、旧姓等の通称名を使用している場合、（ ）書きで本名を併記してください。

(2) 「研究分野」及び「研究内容のキーワード」の欄について

「研究分野」の欄には、科学研究費補助金の「系・分野・分科・細目表」の分科レベルの名称（研究分野・細目表）を用いて、研究分野の主なものを3つ以内で記入してください。「研究内容のキーワード」の欄には、同表の細目を参考に、研究内容を表すキーワードを5つ以内で記入してください。なお、分科レベルに該当する分野等がない場合は、適宜、記入してください。

(3) 「教育上の能力に関する事項」及び「職務上の実績に関する事項」の欄について

①「事項」の項には、各区分に該当する教育上の能力及び職務上の実績に関する事項を過去から現在まで簡潔に記入してください。

②「年月日」の項には、当該事項に係る実施時期、発表時期、従事期間等を記入してください。
※日にちまで記入してください。

③「概要」の項には、当該事項に係る内容の概要のほか、当該活動における役割や成果等を記入してください。

④ 「教育上の能力に関する事項」の例

ア 「1 教育方法の実践例」について

- ・授業外における学習を促進する取り組み、授業内容のインターネット上の公開等
- ・教育委員会や教員研修所等の教育機関における教育経験

イ 「2 作成した教科書、教材」の例

- ・授業や研修指導等で使用する著書、教材等

ウ 「3 教育上の能力に関する大学等の評価」

- ・学生による授業評価、教員による相互評価、表彰等の結果
- ・各大学における自己点検・評価での評価結果
- ・採用決定の際等における評価内容

エ 「4 実務の経験を有する者についての特記事項」

- ・大学から受け入れた実習生等に対する指導
- ・教育委員会や職能団体等の依頼による研修指導等
- ・訴訟・審判・監査・企業提携・研究開発等の専門的な実務に関する教育・研修
- ・大学の公開講座や社会教育講座における講師、シンポジウムにおける講演等

オ 「5 その他」

- ・大学教育に関する団体等における活動、教育実績に対する表彰等
- ・国家試験問題の作成等

⑤ 「職務上の実績に関する事項」の例

ア 「1 資格、免許」

- ・教員、学芸員、図書館司書、弁護士等の資格で担当予定授業科目に関連するもの

イ 「2 特許等」

- ・特許、実用新案等で担当予定授業科目に関連するもの

ウ 「3 実務の経験を有する者についての特記事項」の例

- ・大学との共同研究
- ・訴訟、審判、監査、企業提携、研究開発等の担当実績

- ・各種審議会、行政委員会、各種研究会等の委員
- ・行政機関における調査官等
- ・研究会、ワークショップ、研修会等での報告や発表
- ・調査研究、留学、海外事情調査等
- ・上記を裏付ける報告書、手引き書、マニュアル、雑誌等

エ「4 その他」

- ・職能団体等からの実務家としての卓越性に関する評価・推薦等
- ・論文の引用実績等

(4) 「研究業績等に関する事項」の欄について

- ①「研究業績等に関する事項」には、書類の作成時において未発済みのもののみ記入してください。
- ②「著書、学術論文等の名称」の項について
 - ア 研究等に関連する主要な業績を「(著書)」、「(学術論文)」、「(その他)」の項目に適切に区分し、各業績を発表順に通し番号を付して記入してください。
 - イ 著書については、書名を記入してください。
 - ウ 学術論文については、学術雑誌、学会機関紙、研究報告、紀要等に学術論文として発表したものの題名を記入してください。学位論文については、その旨を明記してください。
 - エ その他については、総説、学会抄録、依頼原稿等にあつては当該記事のタイトルを、報告発表、座談会、討論等にあつては当該テーマを記入してください。
 - オ 査読付きの論文については、題名の後に「(査読付)」と記載してください。
- ③「単著・共著」の項には、当該著書等に記載された著作者が単独である場合には「単著」、著作者が複数いる場合には、監修、編集、編著、共著、部分執筆等の関わり方によらず「共著」と記入してください。
- ④「発行又は発表の年月」の項には、当該著書等の発行又は発表の年月を記入してください。
- ⑤「発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称」の項について
 - ア 著書については、発行所を記入してください。
 - イ 学術論文等については、発表雑誌等の名称、巻・号、掲載ページ等を明記して下さい。
 - ウ 報告発表等の場合には、学会大会名、開催場所等を明記してください。
- ⑥「概要」の項について
 - ア 当該著書等の概要を200字程度で記入してください。
 - イ 当該著書等が共著の場合には、本人の担当部分の章、節、題名、掲載ページを記入するとともに、本人の氏名(下線を付すこと)を含め、著作者全員の氏名(多数にわたる場合は主要な共著者の氏名)を当該著書等に記載された順に記入してください。また、本人の担当部分の抽出に困難があるときは、その理由を記入してください。

【教育研究業績書記入例】

教育研究業績書

2023年8月1日

氏名 関東 八景 印

研究分野	研究内容のキーワード	
〇〇〇学	〇〇〇〇〇〇〇〇	
教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
(1) 〇〇が参加した〇〇学と〇〇体験、〇〇方法体験	2019年4月1日～ 2020年3月31日	〇〇大学との共同により、〇〇体験・・・
(2) オンラインでの研究倫理教育研修	2021年7月12日	通常の冊子体に資料も利便性が高い研究倫理教育の方策として、オンデマンドによる…
2 作成した教科書、教材		
(1) 〇〇学（〇〇出版）	2018年5月1日	文部科学省との共催により、〇〇学の××課程向け教科書として作成され…
3 教育上の能力に関する大学等の評価		
(1) 〇〇大学××年度授業アンケート	2018年1月31日	学生による授業評価アンケートにおいて…
(2) 自己点検・外部評価	2020年3月31日	（評価内容）
4 実務の経験を有する者についての特記事項		
(1) 公開講座（〇〇大学）〇〇について	2016年10月15日	〇〇について〇〇を講演、実技を兼ねる
5 その他		
(1)		
職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
(1) 〇〇士免許	2004年3月31日	登録番号〇〇〇〇号
2 特許等		
(1) 特になし		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
(1) ●●株式会社××課	2004年4月1日～ 2008年3月31日	××主任として、以下のプロジェクトを推進した。 ・〇〇（2004年4月1日～2006年3月31日） ・●●（2006年4月1日～2008年3月31日）

4 その他 (1) ○○県○○健康フェア ○○県○○会と共同開催	2012年11月15日～ 2014年12月15日	○○市○○会と共同し○○市民に対し○○を実施し、対象者に結果をフィードバックした。市民に対し○○に対する啓発を行った
--	-----------------------------	--

研究業績等に関する事項

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 1. ○○学概論	共著	2017年5月	○○堂 編集	○○に対する、○○現場で役立つマネジメント方策の概論を紹介した。○○から実際の○○について各部分事に著者が解説した。 本著において、○○の○○を担当し、○○のマネジメント方策を解説した。 (担当部分: 第○章、○節、題名○○○○、p p. 12~25) [著者名] ○○○○、○○○○、他14名
		<p>著書が共著の場合は、本人担当部分の章、節、題名、掲載ページを「概要」に入れる。</p> <p>著者名は著書に記載された順に記入し、本人の氏名には下線を付す。</p>		
(学術論文) 1. ○○に関する実験研究	単著	2016年9月	『○○大学紀要』 第○巻、○号 pp. ○○~○○	○○に対する○○と○○の関係性について検討した。○○は、○○に対して正の影響を及ぼすことを明らかにした。○○に必要な○○は、○○○○。○○や○○の関係性を考慮すると○○必要となる。
		<p>学術論文の場合、雑誌の名称、巻・号、掲載ページはこちらに入れる。</p>		
2. ○○の○○法	共著	2018年10月	『○○研究』 第○巻、○号 pp. ○○~○○	○○の実例に対し、○○を指導し、○○的に評価し、その○○について効果を検討した。1年間○○を行い○○に合わせて継続的に○○を行った結果、○○は維持された。このような○○に対して○○が有効であることが示唆された。 (担当部分: ○○分析と考察、第○章、○節、pp. 84~89) [著者名] ○○○○、○○○○、○○○○
		<p>共著の場合、本人担当部分の章、節、題名、掲載ページは「概要」に入れる。</p>		
(その他) (学会発表) 1. ○○と○○の展望	単独	2013年11月	第○回○○大会 p. 145 東京: ○○会館	○○や○○に関する現状を明らかにした。加えて○○のユーザビリティについて、その問題点と実際の使用経験を事例として紹介し、○○の○○への導入に関する課題を浮き彫りにした。